

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32686

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25885080

研究課題名(和文) 地域社会教育運動の歴史的研究 1960年代～80年代の大阪府枚方市香里団地の場合

研究課題名(英文) A Historical Study on Community Building, Focusing on Kori-Danchi, Hirakata, Osaka, from 1960s to the 1980s

研究代表者

和田 悠 (Wada, Yu)

立教大学・文学部・准教授

研究者番号：80713461

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大阪府枚方市香里団地を主要なフィールドに設定し、1960年代から80年代にかけての地域社会の変容との接点で、住民による地域社会づくりの経験と意味を歴史的に考察した。具体的には、香里団地から始まり、全市的に広がりを見せた公立幼稚園の新設および定員の増員をもとめる幼稚園運動を主要な分析対象とし、運動の過程のなかで女性(主婦)たちが政治的・社会的な意識を遂げて、革新自治体の担い手となったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study considers the experience and the significance of community building by residents of Kori-Danchi, Hirakata, Osaka, from the 1960s to the 1980s, focusing specifically on the movement for the creation of public kindergartens and for the increase of admittance thereof. This movement raised political/civil awareness among the participating women (housewives) and made them active players of a progressive local government.

研究分野：教育学

キーワード：幼稚園運動 香里団地 革新自治体 社会教育 市民

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者は2010年4月から2013年3月まで日本学術振興会特別研究員として、「1960年代の地域保育運動と知識人の関係史——ジェンダー視点からの松田道雄再考」という研究課題に取り組んだ。この研究のなかで申請者は、1960年代前半の大阪府枚方市香里団地で展開した公立保育所づくり運動、学童保育所づくり運動の歴史の実態とその特質について解明した。本研究では、保育所づくり運動・学童保育所づくり運動以降の、1960年代から80年代にかけて、枚方市香里団地を中心とした地域で展開した地域住民による社会教育実践の歴史の実態を実証的に考究することを課題とした。

(2) 申請者は2011年度から日本オーラル・ヒストリー学会の理事(研究活動担当)として学会運営を担っている。2012年9月の第10回大会(椋山女学園大学)では、記念テーマセッション「日本のオーラル・ヒストリーの源流をたどる——地域女性史の歩みから」を、同じく理事で日本における地域女性史研究の第一人者である折井美耶子氏らとともに企画・実施した。

地域女性史は、1970年代から80年代にかけて、地域の現状と歴史を見つめ直そうとする女性(主婦)によって担われ、居住地である地域や自らの体験に即して歴史を捉え直そうと試みた歴史実践である。申請者は、地域女性史の実践が戦後日本を代表する地域の女性(主婦)による社会教育実践であるという認識を獲得し、その学習経験に注目をするようになった。折井美耶子氏は、1970年代から80年代にかけて公民館等の社会教育施設で自分史講座、女性史講座などの講師を担当しており、地域女性史と社会教育は関連して展開していた側面がある。本研究は、地域女性史運動と枚方市香里団地の社会教育運動の同時代性、関係性に着目し、計画されたものである。

2. 研究の目的

(1) 今日、ボランティアやNPO・NGOによる市民活動や「新しい公共」をめぐる議論が活性化している。それを受けて1960年代・70年代の住民運動や市民運動にその歴史的原点をさぐる研究が生まれている(たとえば、秋葉武「1960年代におけるNPOの生成——市民活動の析出」『立命館産業社会論集』第43巻1号・2号、2007年6月・9月)。また、2011年3月11日の東日本大震災による東京電力福島第一原発事故に端を発し、現在、さまざまな地域で「脱原発」運動が取り込まれており、地域住民という主体の意味と内容があらためて問われている。

高度成長期から1980年代にかけて、集合住宅(団地)が建設された。そこでは自治会活動や小集団(サークル・ネットワーク)活動が活発に展開した。こうした活動は、戦後日本における注目すべき社会形成の試みで

ある。近年、団地社会の高齢化やコミュニティの崩壊が社会問題として浮上している。それにともない、戦後日本の団地社会・文化の歴史的検証の機運が高まり、研究も開始されている。(細野助博・中庭光彦編『オーラル・ヒストリー多摩ニュータウン』中央大学出版部、2010年、原武史『団地の空間政治学』NHK出版、2012年、上野景三「集合住宅におけるソーシャル・キャピタル形成と社会教育」松田武雄編『社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタル』大学教育出版、2012年など)。

本研究は、高度成長期を代表する大阪府枚方市香里団地という地域で展開した社会教育運動(地域づくりと自己教育運動)の歴史的経験の意味と内容の歴史的検証を課題としている。その成果は、高度成長期以降の集合住宅(団地)における社会関係資本や社会文化形成の研究に貢献するものといえる。

(2) 枚方市香里団地を中心とする地域社会教育運動に関してはこれまで多くの研究がなされてきた(藤岡貞彦「社会教育実践と民衆意識」『社会教育実践と民衆意識』民衆社、1977年、井上英之「地域民主主義運動と社会教育」津高正文編『戦後社会教育史の研究』昭和出版、1981年)、宮崎隆志「枚方テーゼ」と市民の自立」『社会教育研究』第23号、2005年3月など)。既存の研究では、「枚方テーゼ」に体现されている社会教育の理念や概念を問題にする傾向が強い。それに対して本研究では、地域における社会教育運動や実践を当該の地域社会との接点で分析・考察を加えることで、その全体像を、地域における市民的公共性の構築過程を動的に解明することを目的としている。「国家」「独占資本」対「民衆」「現場の社会教育職員」という対立構図にもとづく旧来の社会教育史研究をとらえ返し、日本現代史研究と対話することが可能な新しい社会教育史研究を具体的に提示したい。

3. 研究の方法

これまでの研究調査を通じて、枚方市香里団地を中心とした地域で配布されていた月刊のコミュニティ紙である『香里めざまし新聞』第1号(1960年9月4日)～第109号(1971年8月25日)およびその後継紙『ひらかた住民のとも』第1号(1971年10月1日)～第19号(1973年4月1日)を入手している。以上の地域コミュニティ紙を主要な分析対象に、それに加えて地域調査、文献調査によって香里団地の社会教育実践に関する史料と事実を掘り起こすことで、香里団地を中心とした地域で展開した住民による社会教育実践の具体的事実を抽出し、その実態を明らかにする。それと同時に、現在の社会教育・生涯学習論の公共性に関する理論的蓄積を踏まえたうえで、1960年代から80年代にかけての社会教育理論、市民運動論を検討することで、1960年代から80年代にかけての社

会教育の理論空間を解明し、そのなかで事例の意味を考究する。現在への視点と歴史からの視点とが交差するところで社会教育実践とその理論化を問題にすることで社会教育実践史の「厚い記述」を目指す。

4. 研究成果

各年度の研究成果を以下に示す。

【平成 25 年度】

(1)『香里めざまし新聞』『ひらかた住民のとも』を通読し、香里団地を中心とした地域で展開した市民による社会教育活動の具体的事実を抽出した。

(2)1970 年代以降の枚方の社会教育実践の実態を解明するために、『月刊社会教育』(国土社)に掲載されている枚方の社会教育に係る記事を収集し、分析を行なった。ただし、予定していた地域住民・社会教育関係者へのオーラル・ヒストリーは実施することができなかった。

(3)枚方市中央図書館、市史資料室への資料調査を実施した。枚方の社会教育に関する史料や書籍などの状況、実態を確認した。また市議会議事録などの行政史料の状況、実態も確認した。

(4)1960 年代から 80 年代にかけて展開された社会教育理論、地域民主主義論の考察のための準備作業を行なった。研究課題としていた室俊司の「婦人問題と社会教育」論を検討するべく室の著作や論稿を収集し、検討・分析を加えた。室は同時代の婦人問題学習・女性問題学習に関心を寄せ、実際に社会教育の現場に足を運んでおり、同時代の啓蒙的な社会教育社として一定の役割を果たしたこと、しかしながら社会教育理論としてみた場合には独自の展開があったわけではないことを明らかにした。

(5)思想の科学研究会「戦後サークル運動史研究会」に参加し、1950 年代から 70 年代にかけての思想の科学研究会「会報」や同時代に展開したサークル論を研究会として共同で検討した。枚方市香里団地の住民運動の理論的支柱で、『香里めざまし新聞』で地域市民運動論を展開した、思想の科学研究会の 1950 年代以来の会員である大淵和夫の思想と行動について明らかにした。

【平成 26 年度】

平成 25 年度の研究成果の上に立ち、香里団地を中心とする地域の社会教育実践・活動のなかから、香里団地から始まり、枚方市全域に広まり、それ以降の枚方の地方自治に多大な影響をあたえた 1960 年代後半から始まる公立幼稚園の新設及び増設をもとめる幼稚園全入運動(以下、幼稚園運動と略する)について中心的に取り上げることにした。

(1)『香里めざまし新聞』に加えて、平成 25 年度の調査でその所在を確認した『香里団地新聞』『広報ひらかた』を参照することで、香里団地を中心とする地域社会の政治社会

秩序、イデオロギー状況を立体的に復元し、1960 年代から 70 年代にかけての枚方市香里団地を中心とする幼稚園運動についてその歴史の実態を考究した。本研究では、香里団地の具体的な人間関係や「つきあい」のレベルに照準を合わせて運動にかかわる史料を分析・検討した。その結果、原武史『団地の空間政治学』(NHK 出版、2012 年)が描いたように、1960 年代後半に展開した幼稚園運動は革新政党の強い指導のもとでとりくまれた目的意識性の高い民主的な要求運動というよりは、自然成長性の強い、地域住民による超党派の女性(主婦)運動として展開したこと、その結果として枚方市に革新自治体を誕生させる主要な契機となったことを明らかにした。また、1960 年代前半の香里団地における公立保育所づくり運動との接点で展開したところに特徴があり、幼稚園運動の過程は主婦にとっては保育所における集団保育の思想の学習の場でもあった。このように枚方の幼稚園運動は、幼稚園全入を目標に、地域において「子育ての社会化」を常識化しようとするものであり、1960 年代後半から 70 年代にかけての地域づくりと自己教育運動としての固有性を解明した。

(2)1960 年代から 80 年代にかけて枚方市は、日本社会党籍の市長が市政運営を担う戦後日本を代表する関西の革新自治体であった。1967 年から 75 年にかけて市長をつとめた山村富造とその市政について、山村の著作や『広報ひらかた』の記事を精緻に分析することを通じて、枚方市を革新自治体の典型例として位置づけ、その成果や問題点を明らかにした。それと同時に、同時代の革新自治体の理論的支柱であり、山村や枚方市政にも影響をあたえた松下圭一の市民自治論について、松下の著作や論稿を収集し、分析することを通じてその理論的性格を検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

1. 和田悠、大阪府枚方市香里団地を中心とした幼稚園運動と女性の主体形成——1960 年代後半の局面に焦点をあてて、立教大学教育学科年報、第 58 号、2014 年、査読無、95-109

〔学会発表〕(計 5 件)

1.〔発表確定〕大井赤亥・大園誠・新倉貴仁・神子島健・松井隆志・和田悠、「戦後思想の再審判」、日本政治学会 2015 年度研究大会分科会、2015 年 10 月 11 日、千葉大学西千葉キャンパス(千葉県千葉市)

2. 和田悠「1970 年代の保育・教育運動の課題と展望」、第 37 回唯物論研究協会研究大会テーマ別セッション(ジェンダー部会)、2014 年 10 月 18 日、東京農工大学府中キャンパス(東京都府中市)

3. 和田悠、「赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり編『戦後知識人と民衆観』(影書房、2014年)を読む」、現代思想史研究会例会、2014年10月11日、早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区)

4. 和田悠、「戦後「民衆史」の構想——『シリーズ戦後日本社会の歴史』第3巻・第4巻を中心に」、歴史学研究会現代史部会、2013年11月30日、早稲田大学戸山キャンパス(東京都新宿区)

5. 和田悠、「高度成長のなかの知識人——松田道雄と1960年代の保育運動」、第36回唯物論研究協会研究大会テーマ別分科会(戦後日本の民衆と思想)、2013年10月20日、岐阜大学柳戸キャンパス(岐阜県岐阜市)

〔図書〕(計1件)

1.〔刊行予定〕和田悠、法律文化社、戦後思想の再審判、第11章 松下圭一、2015年9月

6. 研究組織

(1)研究代表者

和田 悠 (WADA YU)

立教大学・文学部・准教授

研究者番号：80713461